

平成24年松本市議会第2回臨時会市長招集あいさつ[24.10.30(火) PM1:00]

本日ここに、平成24年松本市議会第2回臨時会を招集いたしましたところ、議員の皆様方には、おそろいでご出席をいただき、厚く御礼を申しあげます。

今臨時会は、去る10月23日、柿沢議長から継続審査中の、平成23年度松本市歳入歳出決算の認定、並びに平成23年度松本市公営企業会計利益の処分及び決算の認定の、議案2件を付議事件として臨時会の招集請求がございましたので、招集いたしましたものでございます。

なお、議案以外のものとしたしましては、市長の専決処分事項の指定にかかわる報告10件を報告いたしております。

よろしくご審議を賜りますようお願い申しあげます。

さて、10月も残すところあと1日となり、朝夕は冷気が身に染み、北アルプスは紅葉から白銀の世界へと衣替えを始めております。

ご案内の通り今年の秋も、全国有数のそば祭りとして着実に知名度を高め、定着した「信州・松本そば祭り」が9回目を迎えて賑やかに開催され、それに続いて数多くのイベントが松本の地で催されたわけですが、改めまして、開催に当たり、それぞれご尽力を賜りました関係の皆様方に、この場をお借りして深く感謝を申しあげます。

多彩極まる様々なイベントを通して、人口24万人余の地方都市「松本」の元気な姿や、まちの魅力を広く発信することができ、加えて観光客を始め多くの皆様、城下町まつもとのまちを散策されることで、松本城を中心に市街地の賑わいが創出されましたことは、誠に喜ばしいことであり、とりわけ回遊性を生かした松本のまちづくりが、必要にして不可欠であると痛感した次第でございます。

そのような中、歩くことを基本に、市民との協働により持続性を保持したまちづくりを着実に進めていくためには、まずは勇気を持って一步を踏み出し、市民の皆様にご具体的な形でお示しし、実際に体験していただくことが肝要との思いから、去る9月22日、次世代交通政策の一環として、「2012松本カーフリーデー」の開催に併せ、車の通行を抑制し、安心して歩ける道路空間を確保する歩車共存のための社会実験を、初めて実施いたしました。

大名町通りでは、一般車両を通行止めとし、歩行者優先レーンとバス・自転車優先レーンを設置して、オープンカフェや歩行者のための道路空間を確保するとともに、路線バスの通行を鐘の音でお知らせしました。

路線バスが通過した後は、自転車利用者が気持ち良さそうに車道を走り、観光客などが自由に街歩きを楽しんでおりました。

また、中町通りでは、プランターにより車道を狭め、さらには車の一旦停止を促すことで車速を抑制し、安心して歩行することができる空間を確保しました。

私自身、実験当日に、実際にまちを歩いてみました。まさに8年前の初めての市長選の際、「超少子高齢型の人口減少社会を迎え、車優先から歩くことを基本とした時代が

必ずやって来る。従って、松本城を中心とした松本のまちづくりを進めていくためには、大名町などを歩行者天国とすることにより、賑わいと人の流れの創出を図りたい。」と、多くの皆様に申しあげたことを懐かしく思い起こしました。

今回のごとき社会実験を通して、様々な課題を克服しながら、人が歩く空間を確保し、併せて賑わいを創出していく、「新しい交通体系によるまちづくり」を、一步一步着実に進めてまいりたいと、決意を新たにしたところでございます。

今後は、実施した社会実験の総合的な検証、考察を行い、成果や課題などを公表し、併せて市民の皆様から、ご意見などをお伺いする機会を設けてまいりたいと考えております。

また昨日は、松本市並びに諏訪市を主会場に長野県では初めての開催となりました、第50回技能五輪全国大会の閉会式がキッセイ文化ホールで行われ、おかげさまで本大会も成功裏に無事閉幕いたしました。

閉会式に参加された選手の皆さんは、競技を終えた安堵の中、発表される成績に胸を躍らせ、成績が発表されるたびに、会場には大きな歓声が湧き上がり、それぞれの結果に一喜一憂しておりました。

私も大会副会長として、柿沢議長とともに8職種のプレゼンターを務めさせていただき、長野県からは、金賞8人、銀賞16人、銅賞11人、敢闘賞18人、その内、松本市からは、金賞1人、銀賞2人、敢闘賞5人と、多くの選手が輝かしい成果を手に入れました。

今回、松本市からは17名の選手が出場されましたが、結果に満足した選手、悔いを残した選手、思いはそれぞれあるとは思いますが、郷土の期待を背に、大きな声援の中で、持てる力を十分に発揮した貴重な経験は、これからの人生において、必ずや生かされるものと確信しております。

この大会を通して、次代を担う青年技能者たちの、一つの事をやり遂げた充実感と輝きのある表情を目の当たりにし、改めて、「ものづくり」と「人材育成」の重要性を実感した次第でございます。同時に、市民の皆様におかれましても、若き技能者の卓越した技と、ひた向きの姿に触れる機会が得られたことにより、「ものづくり」への関心が一層高まったものと思っております。

松本市としましては、この大会を一つの契機に、引き続き、青年技能者の育成を図るとともに、地域の若者が地域で技能を高め、地域で活躍することができる、「ものづくり人材育成システム」の構築に努めてまいります。

さらに、11月に入りますと、3日の文化の日の『第55回まつもと市民祭「松本まつり」』を皮切りに、「いい医療の日 第2回ありがとうを伝える集い」、「第2回世界健康首都会議」、「岳都松本 山岳フォーラム2012」が、それぞれ開催されます。

いずれも、去年は初めての試みであったわけですが、とりわけ、11月12日に開催いたします「第2回世界健康首都会議」は、初回の研究者的な報告が多かったことなどを踏まえ、今年は実践的な報告などを紹介する機会にしたいと考えております。

基調講演では、まず、スウェーデン王国のアダム・ハグマンさんから、実際に市民の皆さんがボランティアとして製品開発に携わる、「市民モニター」の事例について報告をい

ただきます。

続いて、東京の聖路加国際病院周術期センター長で、聖路加看護大学大学院特任教授の
みやさかかつゆき
宮坂 勝之先生から、これからの医療の方向性を踏まえ、健康・医療機器の開発について
のお話を伺います。

また、パネルディスカッションでは、松本地域健康産業推進協議会の会長顧問でありま
こみやまひろし
す、小宮山 宏先生にコーディネーターをお願いし、「健康に関する地域の課題認識と、
その課題を解決する仕組み」について討論いただき、先進的な取組み事例などを通して、
課題解決に向けた方向性や、新たな可能性が明確になるものと期待するところでございま
す。

超高齢社会に生きる多くの市民が、社会の資産として尊厳を持って生き、一人ひとりの
「いのち」と「暮らし」を大切にする社会、「健康寿命延伸都市」を持続可能な形で経済
面から支えていく、松本スタイルの社会システムの構築を目指した都市戦略を、広く国内
外に向け情報発信してまいりたいと考えておりますので、引き続き、議員の皆様を始め、
市民の皆様には、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申しあげ、臨時会の招集に当たり
ましてのごあいさつといたします。

(以 上)